

地域に根ざした、県民から信頼される大学

**県立広島大学学長
森永 力**

(1)総括

①我が国の高等教育の現状と課題をどのように認識しているのか。

大学審議会答申

- ・1991年2月 大学教育の改善について
- ・1997年12月 高等教育の一層の改善について
- ・1998年10月 21世紀の大学像と今後の改革方策について

中央教育審議会答申

- ・2002年2月 新しい時代における教養教育の在り方について
- ・2002年8月 大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について「システム答申」
- ・2005年1月 我が国の高等教育の将来像「将来像答申」
- ・2008年12月 学士課程教育の構築に向けて「学士課程答申」
- ・2012年8月 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～「質的転換答申」
- ・2018年11月 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン「グランドデザイン答申」

グランドデザイン答申

予測不可能な時代の到来を見据え、**専攻分野についての専門性を有するだけでなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材（21世紀型市民）が必要**



文理横断的にこうした知識、スキル、能力を身に付けることこそが、社会における課題の発見とそれを解決するための学問の成果の**社会実装を推進する基盤**となる。

上記のような広範かつ高度な能力・資質をすべての大学生が身に付けることは不可能であり、また必要もない。個々の大学が、個々の学生の能力、資質、将来の進路に応じて、必要と考える能力を必要なレベルで身に付けさせればいい。（本間政雄：99年文部省総務審議官）

国際教養大学・会津大学

公立大学の役割：地方財政という公的資金を基盤として設置・運営されるという性格から、設置者である**地方公共団体の人材養成等各種の政策をより直接的に体現する**という役割を持つ。そして、各地方公共団体の高等教育政策の中心的役割を担うもので、**教育機会の均等の実現、地域活性化の推進、行政課題の解決**などを行う。

教育未来創造会議第1次提言(令和4年5月10日)

「我が国の未来をけん引する大学と社会の在り方について」

①未来を支える人材を育む大学等の機能強化

- ・進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等の再編促進と産学官連携の強化
- ・学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受け入れ強化
- ・理工農系をはじめとした女性の活躍推進
- ・グローバル人材の育成・活躍推進
- ・デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換
- ・大学法人のガバナンス強化
- ・知識と知恵を得る初等中等教育の充実

②新たな時代に対応する学びの支援の充実

- ・高等教育修学支援新制度の検証、改善の検討
- ・大学院生への支援の充実
- ・地方自治体や企業による奨学金の返還支援の推進

③学び直し(リカレント教育)を促進するための環境整備

- ・学び直し成果の適切な評価
- ・学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備
- ・女性の学び直しの支援
- ・企業・教育機関・自治体等の連携による体制整備

(1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等再編促進・産学官連携強化

① デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組み構築

- ・大学設置に係る規制の大胆な緩和（専任教員数や校地・校舎の面積基準、標準設置経費等）
- ・再編に向けた初期投資（設備等整備、教育プログラム開発等）や開設年度からの継続的な支援（複数年度にわたり予見可能性を持って再編に取り組めるよう継続的な支援の方策等を検討）
- ・教育の質や学生確保の見通しが十分でない大学等の定員増に関する設置認可審査の厳格化
- ・私学助成に関する全体の構造的な見直し（定員未充足大学の減額率の引き上げ、不交付の厳格化等）
- ・計画的な規模縮小・撤退等も含む経営指導の徹底
- ・修学支援新制度の機関要件の厳格化（定員充足率8割以上の大学とする等） 等

② 高専、専門学校、大学校、専門高校の機能強化

- ・産業界や地域のニーズも踏まえた高専や専攻科の機能強化（デジタルなどの成長分野における定員増等）
- ・専門学校や高専への改編等も視野に入れた専門高校の充実 等

③ 大学の教育プログラム策定等における企業・地方公共団体の参画促進

④ 企業における人材投資に係る開示の充実

⑤ 地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進

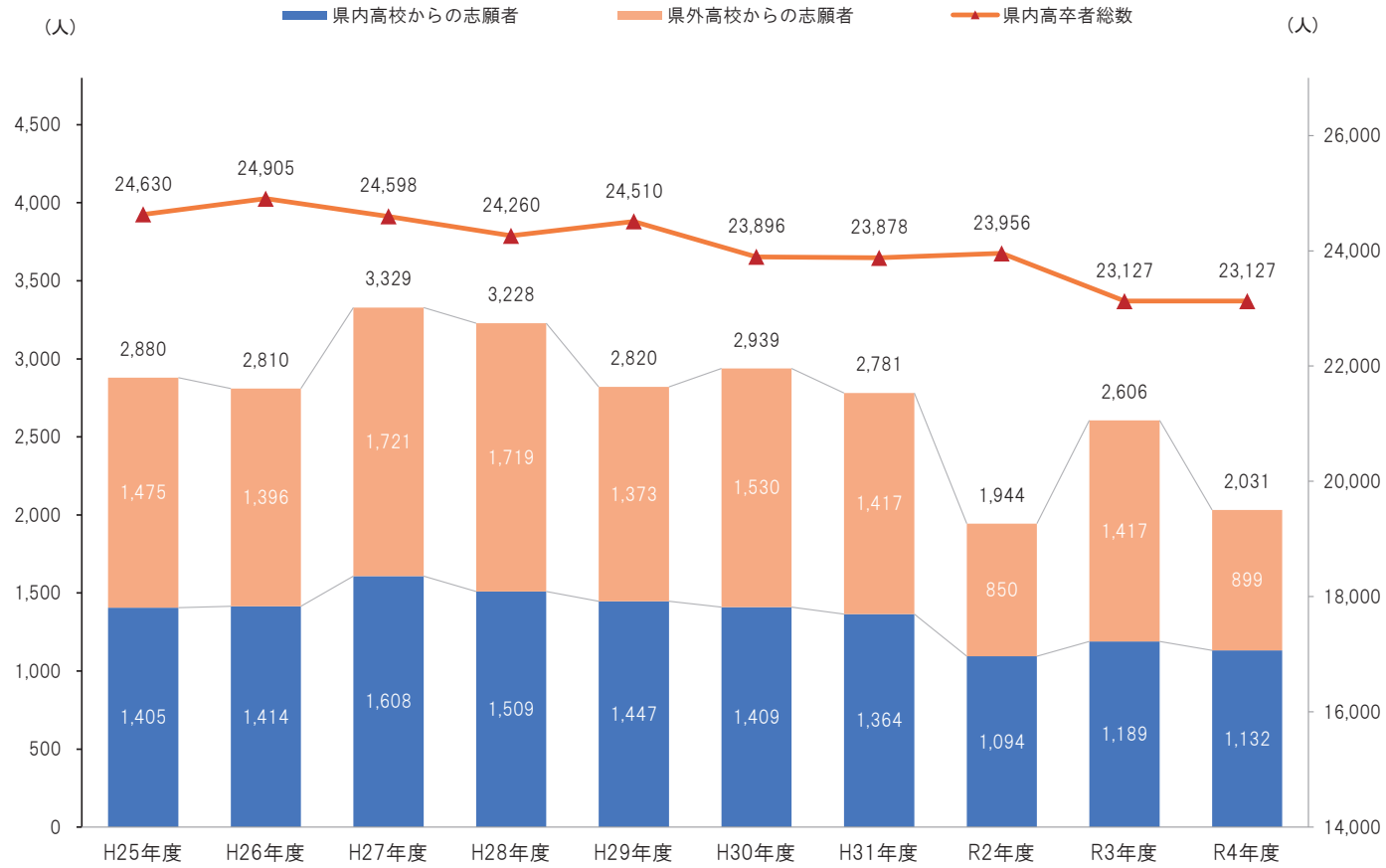
⑥ 地域における大学の充実や高等教育進学機会の拡充

⑦ 地域のニーズに合う人材育成のための産学官の連携強化（半導体、蓄電池）

(1)総括

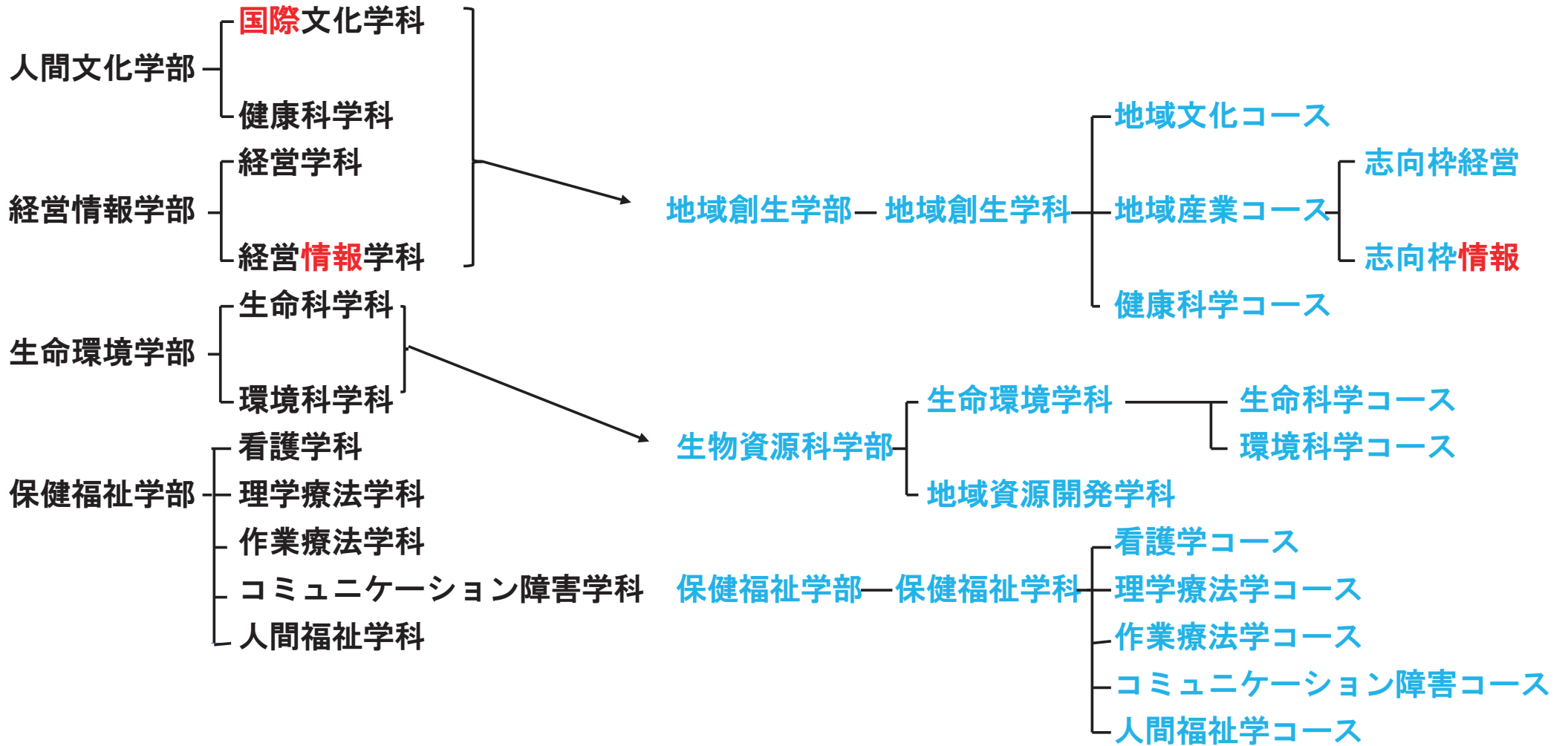
②県立広島大学の現状と課題、将来像をどのように考えているのか。

本学志願者数（県内・県外）と県内高卒者数推移



令和元年まで

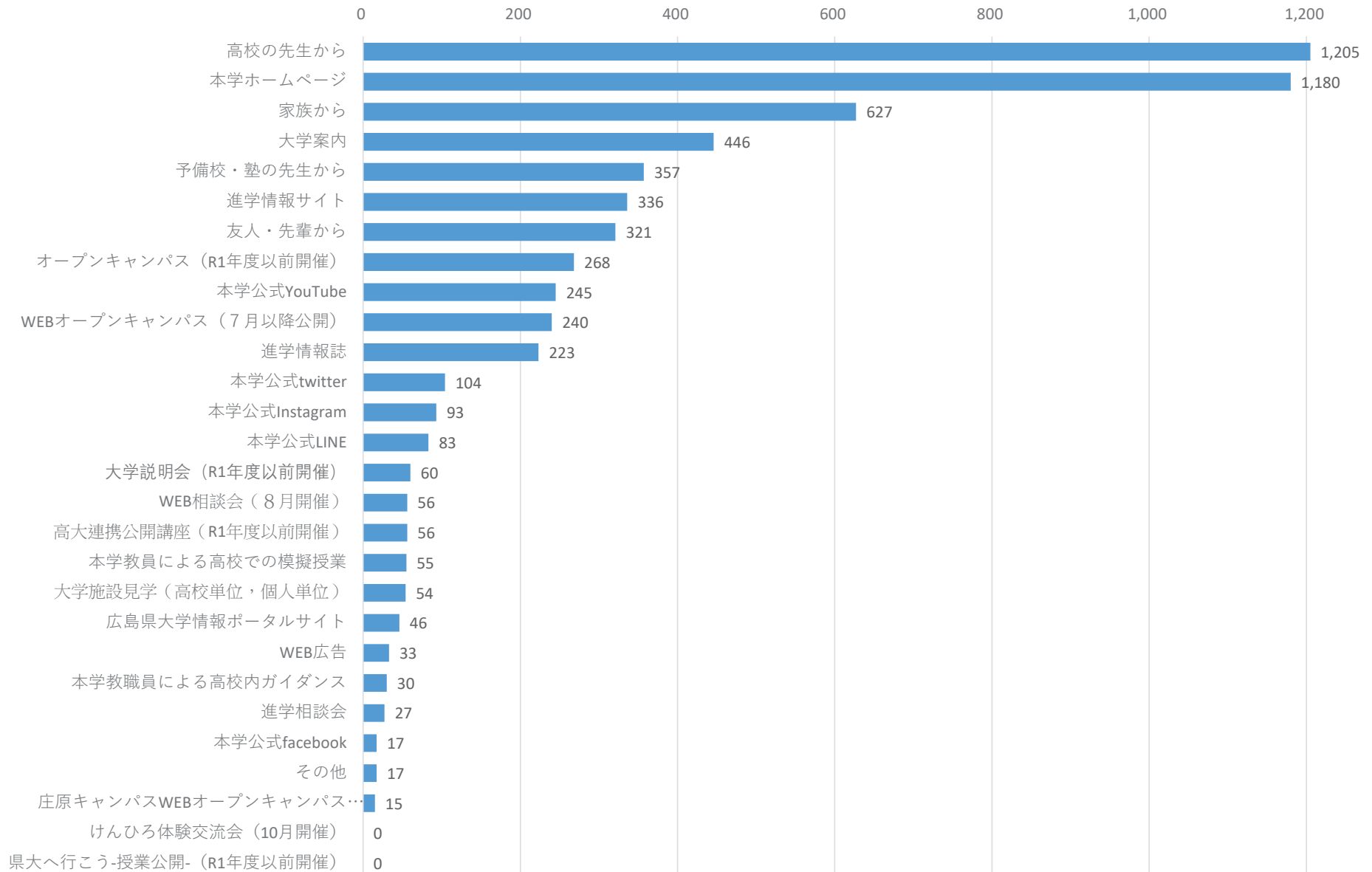
令和2年度から



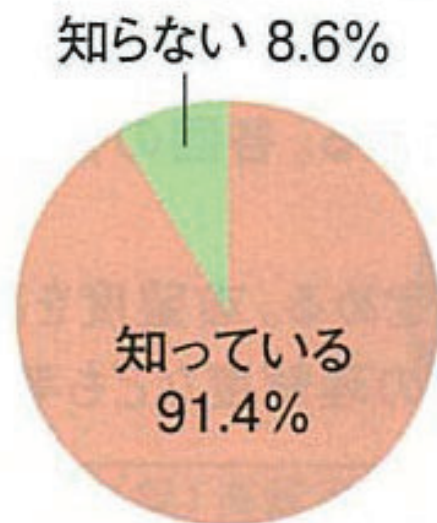
- 3キャンパスと新たな教育モデルそれぞれの教育理念を実現するための手法は、次表のとおり大きく異なる。

項目	3キャンパス	新たな教育モデル(案)	
3 CS ポリシー	入学者選抜 (アドミッション ・ポリシー)	基礎学力の測定をベースとする判定 ・学力検査、小論文、面接等により、資質や意欲を評価し、入学者を選抜。 ≪一般選抜試験の例≫ ・大学入試センター試験と個別学力検査、小論文、面接を組み合わせて可否を判定。	コンピテンシーの測定による判定 ・知識・技能だけでなく、コミュニケーション能力や探究力、学びや課外活動に対する取組姿勢などを多面的に評価するAO入試を中心に、入学者を選抜。 ≪AO入試のイメージ≫ ・個別学力検査は行わず、高校におけるPBLや課外活動の実績、面接、小論文、グループディスカッション、英語力等によって総合的に可否を判定。
	教育課程 (カリキュラム ・ポリシー)	高度な専門性の修得を中心とする教育 ・全学共通教育と専門教育に必要な科目を段階的・体系的に配置し、講義・演習・実験・実習・実技などの授業形態により、各科目の目標到達をめざす。 ・資格取得や自らの専門を超えた力を養う副専攻プログラムを配置。	多様な主体と連携した実践的な教育 ・4年間を通じて課題解決演習、体験・実践活動を中心に教育活動を展開するとともに、幅広い教養やICT・データサイエンスなどの基盤学修を並行して履修し、知識・スキルの「修得」と「実践」を反復。
	卒業認定 (ディプロマ ・ポリシー)	知識・技能の修得をベースとする成績評価 ・筆記試験、実技試験等のほか、レポート、プレゼンテーション、授業への能動的な参加度等で総合的に成績を評価。	コンピテンシーの修得を目指す成績評価 ・課題解決演習に取り組む過程における意欲・態度や他者と協働する姿勢などを評価する独自の成績評価システムを導入し、卒業時までに必要なコンピテンシーの修得を徹底。
教員の採用	教育・研究業績を重視する教員採用 ・学位(博士・修士)、研究上の業績(論文・著書等)のほか、大学における教育歴や専攻分野における特に優れた知識・経験など、職位ごとに定めた基準に基づき審査・選考。	多様なバックグラウンドを有する教員採用 ・課題解決演習・対話型の授業の教育経験、海外での勤務経験、企業・国際機関等での実務経験など、多様な経験を有する教員や、特定の専門分野だけでなく、学際的にリベラルアーツ科目を教えられる教員を採用。	
学 事 暦	前期・後期の2学期制 ・4月から8月を前期、9月から3月を後期とする一般的な2学期制。	完全クォーター制(4学期制) ・1年間で4つの学期に均等配置する完全クォーター制を導入し、3か月単位のPBLやインターンシップ、海外留学、留学生・帰国生の秋入学制度を実現。	

■Q1 県立広島大学の情報を得る際に、どのようにして知ったか

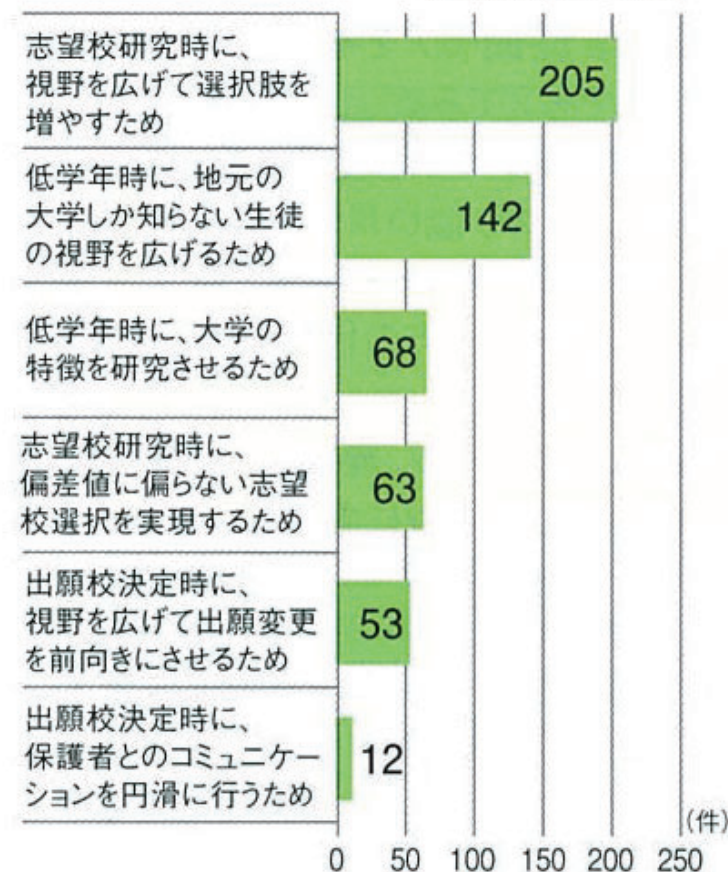


【図表2】高校のTHE世界大学 ランキング日本版の認知度



【図表3】高校のTHE世界大学 ランキング日本版の活用目的

※複数回答(n=551)



*【図表2、3】とも高校教員向けアンケート結果
(2021年6月ベネッセコーポレーション実施)

THE 世界大学ランキング日本版2022中国・四国大学ランキング

日本総合	中四国総合順位	大学名	総合	教育リソース	教育充実度	教育成果	国際性
10	1	広島大学	72.3	60.2	81.1	77.3	75.9
21	2	岡山大学	64.0	57.0	73.3	56.4	68.1
56	3	山口大学	52.8	45.3	68.9	39.0	52.7
67	4	鳥取大学	51.1	54.0	66.6	36.5	28.7-38.8
90	5	島根大学	47.3	49.9	59.6	17.2-25.8	48.6
94	6	愛媛大学	47.3	46.4	59.1	32.2	43.3
97	7	徳島大学	47.1	55.6	49.3-56.1	38.0	28.7-38.8
98	8	香川大学	47.0	55.2	49.3-56.1	40.5	28.7-38.8
101-110	9	高知工科大学	45.2-46.4	41.3	69.6	28.0	28.7-38.8
111-120	10	高知大学	43.5-45.0	50.1	49.3-56.1	29.2	28.7-38.8
141-150	11	県立広島大学	41.3-42.0	37.7	58.4	-	42.8
151-200	12	梅光学院大学	34.2-40.9	-	-	-	88.1
201+	13+	広島経済大学	20.6-34.1	-	-	-	28.7-38.8
201+	13+	広島国際大学	20.6-34.1	20.3-29.0	-	-	-
201+	13+	広島女学院大学	20.6-34.1	-	-	-	51.4
201+	13+	広島修道大学	20.6-34.1	-	49.3-56.1	17.2-25.8	-
201+	13+	広島工業大学	20.6-34.1	20.3-29.0	49.3-56.1	17.2-25.8	-

【図表1】THE世界大学ランキング日本版2022 ランキング指標詳細

分野	項目	使用データ	割合(%)
教育 リソース Resources	学生一人あたりの資金	経常収入÷在籍学生数	8
	学生一人あたりの教員比率	教員数÷在籍学生数	8
	教員一人あたりの論文数	論文数÷教員数	7
	大学合格者の学力	ベネッセ総合学力テストにおける合格者の学力	6
	教員一人あたりの競争的 資金獲得数	競争的資金制度の大学別獲得件数÷教員数	5
教育 充実度 Engagement	学生調査：教員・学生の 交流、協働学習の機会	「教員・学生の交流、協働学習の機会の程度」という 設問の0～10点の回答平均値(2か年分データ使用)	6
	学生調査： 授業・指導の充実度	「授業・指導の充実度」という設問の0～10点 の回答平均値(2か年分データ使用)	6
	学生調査： 大学の推奨度	「大学の推奨度」という設問の0～10点の回答 平均値(2か年分データ使用)	6
	高校教員の評判調査： グローバル人材育成の重視	「グローバル人材育成に力を入れている」という 設問の大学別得票数(2か年分データ使用)	6
	高校教員の評判調査： 入学後の能力伸長	「生徒の力を伸ばしている」という設問の 大学別得票数(2か年分データ使用)	6
教育成果 Outcomes	企業人事の評判調査	「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査」に おける項目ごとの獲得点数の合計(2か年分データ使用)	8
	研究者の評判調査	THEによる高等教育機関研究者の評判調査における 大学別得票数の合計(2か年分データ使用)	8
国際性 Environment	外国人学生比率	在籍外国人学生数÷在籍学生数	5
	外国人教員比率	在籍外国人教員数÷教員数	5
	日本人学生の留学比率	日本人学生の留学生数÷在籍学生数	5
	外国語で行われている 講座の比率	外国語で行われている講座数÷全講座数	5

(件)
]

教員数＝授業を担当している教員のみ集計。人数はFTE換算値。フルタイムの何人分に相当するかで示したもの

(2)教育

- ①県立広島大学の人材育成目標をどのように設定すべきと考えているのか。
- ②その人材育成目標を達成していくため、どのように教育改革に取り組んでいくのか。

広島県公立大学法人 第三期中期目標

中期目標の期間：2019年4月1日から2025年3月31日まで（6年間）

県立広島大学に関する目標

1. 教育の質の向上に関する目標

- ・ 育成すべき人材に関する目標
- ・ 学士課程教育に関する目標
- ・ 大学院教育等に関する目標

2. 研究の質の向上に関する目標

- ・ 研究水準及び研究の成果等に関する目標
- ・ 研究推進体制等の整備に関する目標

共通する目標（県立広島大学と叡啓大学）

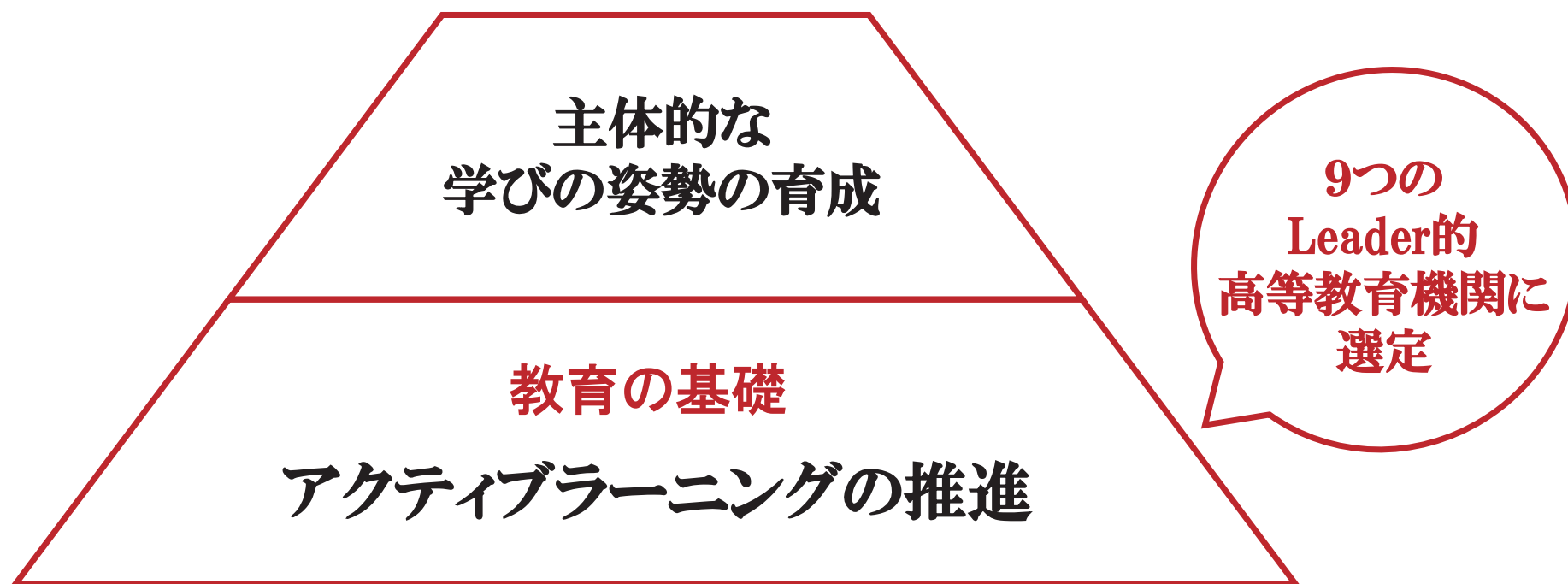
1. 地域貢献に関する目標
2. 大学連携の推進に関する目標
3. 学生支援に関する目標

(1) 育成すべき人材に関する目標

専門的な知識・技能をベースとして、地域の課題について主体的に考え、解決に向けて行動できる実践力や、多様性を尊重する国際感覚、豊かなコミュニケーション能力を身に付け、生涯にわたり学び続ける自律的な学修者として、地域創生に貢献できる「**課題探究型地域創生人材**」の育成を行う。

7年間の議論の後に辿り着いた本学の教育目標

課題探究型地域創生人材の育成

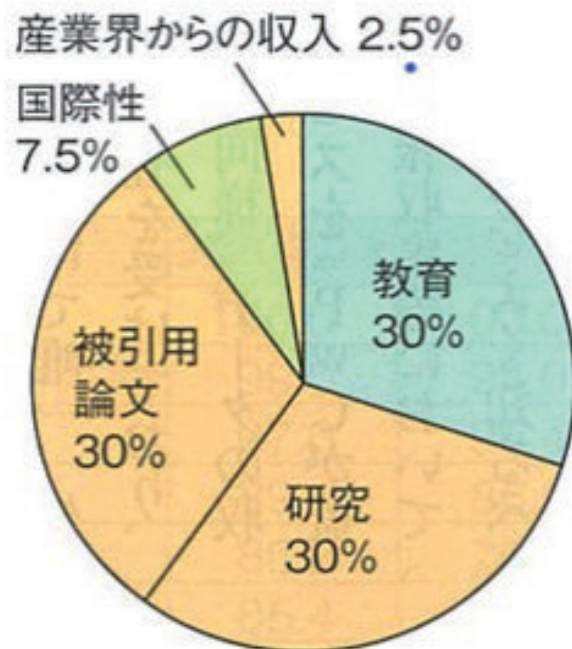


(3)研究

- ①県立大学はどのような研究を進めていくべきと考えているのか。
- ②そのような研究を促進していくため、どのように取り組んでいくのか。

全国的な知名度の向上を図る（ブランド力を上げる）

- 大学のランキングを上げる(uniRank:13,800大学)
2017年3,569位、2018年3,792位、2019年4,710位、
2020年5,099位、2021年5,432位、2022年3,952位
- THE世界大学ランキング日本版
教育リソース 34%、教育充実度 30%
教育成果 16%、 国際性 20%、



参考: THE世界大学ランキング2023 ランクインした日本の大学(117大学)

ランキング	大学名
39	東京大学
68	京都大学
201-250	東北大学
251-300	大阪大学
301-350	名古屋大学、東京工業大学
501-600	北海道大学、九州大学、東京医科歯科大学、筑波大学
601-800	関西医科大学、産業医科大学、横浜市立大学
801-1000	金沢大学、藤田医科大学、広島大学、順天堂大学、慶應義塾大学、近畿大学、神戸大学、久留米大学、日本医科大学
1001-1200	千葉大学、浜松医科大学、兵庫医科大学、東京慈恵会医科大学、金沢大学、熊本大学、京都府立医科大学、新潟大学、岡山大学、立教大学、聖マリアンナ医科大学、東京医科大学、東京都市大学、豊田工業大学、早稲田大学
1201-1500	愛知医科大学、愛媛大学、電気通信大学、岐阜大学、群馬大学、法政大学、香川大学、金沢医科大学、北里大学、高知工科大学、九州工業大学、三重大学、長岡技術科学大学、長崎大学、名古屋市立大学、大阪公立大学、立命館大学、琉球大学、佐賀大学、埼玉医科大学、札幌医科大学、芝浦工業大学、滋賀医科大学、信州大学、昭和大学、帝京大学、東邦大学、東海大学、徳島大学、東京農工大学、東京海洋大学、東京理科大学、富山大学、豊橋技術科学大学、山形大学、山梨大学、横浜国立大学
1501+	秋田大学、青山学院大学、千葉工業大学、中部大学、中央大学、獨協医科大学、同志社大学、福井大学、福岡大学、兵庫県立大学、茨城大学、岩手大学、鹿児島大学、神奈川大学、関西大学、高知大学、工学院大学、関西学院大学、京都産業大学、京都工芸繊維大学、明治大学、名城大学、宮崎大学、室蘭工業大学、名古屋工業大学、お茶の水女子大学、大分大学、大阪工業大学、大阪医科薬科大学、龍谷大学、埼玉大学、鳥根大学、静岡大学、静岡国立大学、上智大学、東京農業大学、東京都市大学、東京電機大学、東京薬科大学、鳥取大学、東洋大学、宇都宮大学、山口大学

		2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
ランクイン大学		104か国 1,799	99か国 1,6,62	93か国 1,527	92か国 1,396	86か国 1,258
国内	ランクイン大学	117	118	116	110	103
	公立大学	10	12	12	11	10

※同一ランキング内では、大学名(英語名)のアルファベット順に記載。

【図表1】THE世界大学ランキング日本版2022 ランキング指標詳細

分野	項目	使用データ	割合(%)
教育 リソース Resources	学生一人あたりの資金	経常収入÷在籍学生数	8
	学生一人あたりの教員比率	教員数÷在籍学生数	8
	教員一人あたりの論文数	論文数÷教員数	7
	大学合格者の学力	ベネッセ総合学力テストにおける合格者の学力	6
	教員一人あたりの競争的 資金獲得数	競争的資金制度の大学別獲得件数÷教員数	5
教育 充実度 Engagement	学生調査：教員・学生の 交流、協働学習の機会	「教員・学生の交流、協働学習の機会の程度」という 設問の0～10点の回答平均値(2か年分データ使用)	6
	学生調査： 授業・指導の充実度	「授業・指導の充実度」という設問の0～10点 の回答平均値(2か年分データ使用)	6
	学生調査： 大学の推奨度	「大学の推奨度」という設問の0～10点の回答 平均値(2か年分データ使用)	6
	高校教員の評判調査： グローバル人材育成の重視	「グローバル人材育成に力を入れている」という 設問の大学別得票数(2か年分データ使用)	6
	高校教員の評判調査： 入学後の能力伸長	「生徒の力を伸ばしている」という設問の 大学別得票数(2か年分データ使用)	6
教育成果 Outcomes	企業人事の評判調査	「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査」に おける項目ごとの獲得点数の合計(2か年分データ使用)	8
	研究者の評判調査	THEによる高等教育機関研究者の評判調査における 大学別得票数の合計(2か年分データ使用)	8
国際性 Environment	外国人学生比率	在籍外国人学生数÷在籍学生数	5
	外国人教員比率	在籍外国人教員数÷教員数	5
	日本人学生の留学比率	日本人学生の留学生数÷在籍学生数	5
	外国語で行われている 講座の比率	外国語で行われている講座数÷全講座数	5

(件)
]

教員数＝授業を担当している教員のみ集計。人数はFTE換算値。フルタイムの何人分に相当するかで示したもの

県立広島大学の5つの特徴

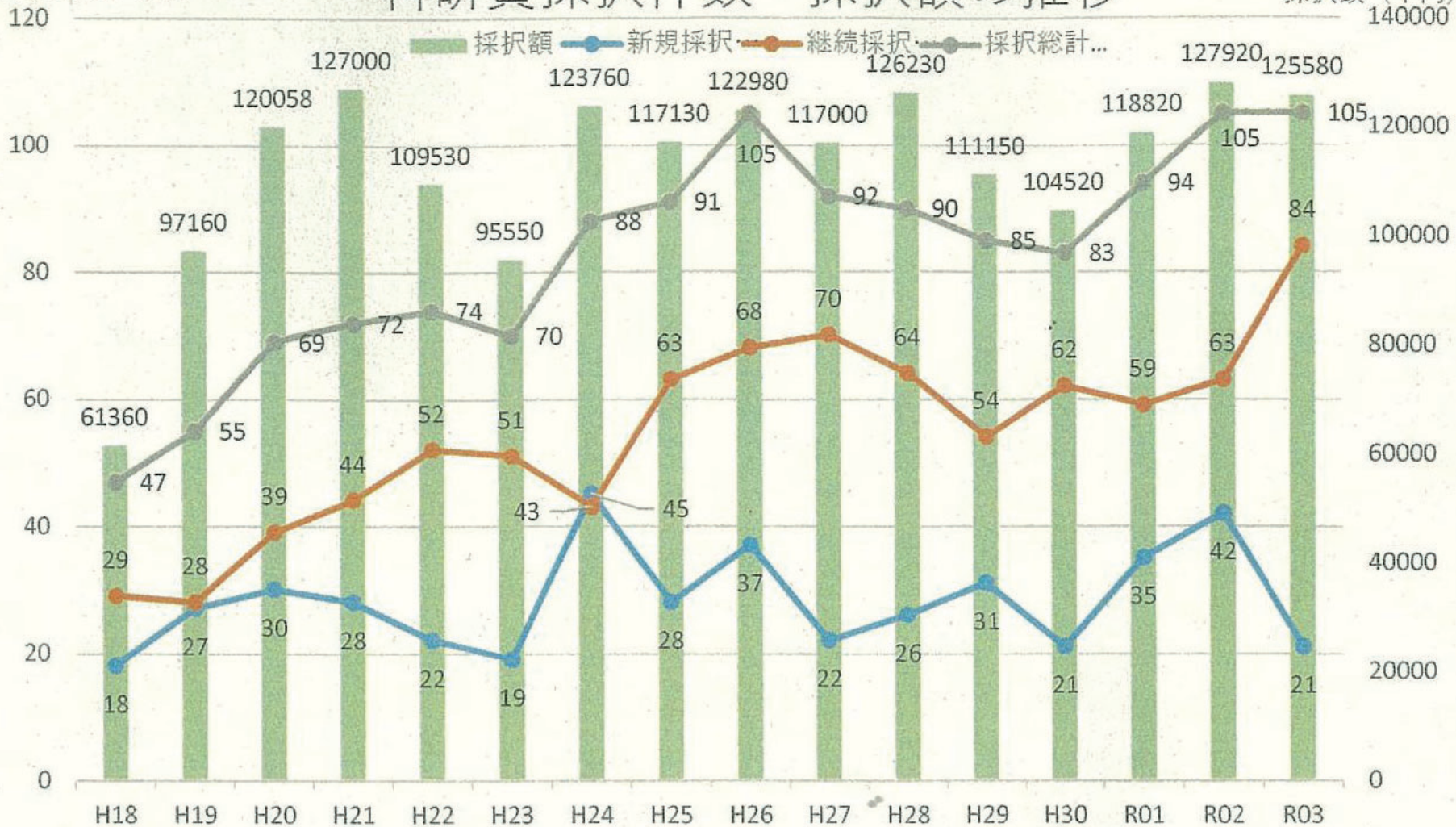
- ① 3大学を統合してから15年。100年の歴史の中に絶えず見据える未来
- ② 教育力を向上させる確かな研究力
- ③ 真摯に勉学に取り組む学生を育成
- ④ 未来を見据えて現状を分析
- ⑤ 7年間の議論の末に辿り着いた本学の教育目標(アクティブラーニング)

採択件数・採択額の推移

採択件数 (件)

科研費採択件数・採択額の推移

採択額 (千円)



中国・四国・九州の公立大学採択状況一覧 ～H19(2007)年度から15年連続1位～

R4.1.15 文部科学省発表資料から抜粋

No.	機 関 名	新規+継続						備考	
		採択件数	女性比率	40歳未満比率	直接経費(千円)	間接経費(千円)	合計(千円)	新規採択件数	新規採択率
1	県立広島大学	105	38.10%	21.90%	96,600	28,980	125,580	21	15.33%
2	高知工科大学	76	6.60%	39.50%	135,500	40,650	176,150	27	28.42%
3	九州歯科大学	75	33.30%	41.30%	90,500	27,150	117,650	29	39.19%
4	北九州市立大学	66	21.20%	21.20%	103,200	30,960	134,160	13	16.46%
5	岡山県立大学	65	36.90%	18.50%	69,500	20,850	90,350	17	25.00%
6	高知県立大学	62	71.00%	8.10%	56,800	17,040	73,840	17	36.96%
7	広島市立大学	54	25.90%	20.40%	63,600	19,080	82,680	10	13.51%
8	山陽小野田市立山口東京理科大学	41	7.30%	43.90%	45,900	13,770	59,670	9	13.43%
9	福岡県立大学	39	48.70%	15.40%	27,300	8,190	35,490	8	14.29%
10	長崎県立大学	38	39.50%	21.10%	36,100	10,830	46,930	12	20.69%
11	島根県立大学	31	54.80%	22.60%	30,200	9,060	39,260	5	12.50%
12	熊本県立大学	30	20.00%	20.00%	35,500	10,650	46,150	8	16.00%
13	福岡女子大学	28	39.30%	25.00%	29,400	8,820	38,220	8	20.00%
14	福山市立大学	25	44.00%	36.00%	21,300	6,390	27,690	7	58.33%
15	山口県立大学	23	65.20%	13.00%	17,800	5,340	23,140	7	20.00%
16	大分県立看護科学大学	23	73.90%	21.70%	16,900	5,070	21,970	10	27.03%
17	名桜大学	22	54.50%	22.70%	16,900	5,070	21,970	8	13.56%
18	香川県立保健医療大学	20	70.00%	30.00%	19,000	5,700	24,700	7	35.00%
19	愛媛県立医療技術大学	18	77.80%	11.10%	15,300	4,590	19,890	7	21.88%
20	沖縄県立芸術大学	18	50.00%	22.20%	19,200	5,760	24,960	5	26.32%
21	新見公立大学	15	80.00%	0.00%	12,200	3,660	15,860	4	17.39%
22	下関市立大学	15	20.00%	40.00%	10,100	3,030	13,130	5	12.20%
23	沖縄県立看護大学	14	85.70%	0.00%	10,900	3,270	14,170	2	20.00%
24	宮崎県立看護大学	13	69.20%	23.10%	8,300	2,490	10,790	1	4.76%
25	公立鳥取環境大学	10	30.00%	10.00%	7,800	2,340	10,140	1	6.67%
26	尾道市立大学	8	37.50%	50.00%	4,200	1,260	5,460	1	5.56%
27	宮崎公立大学	6	16.70%	50.00%	3,800	1,140	4,940	0	0.00%

(注) 「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「計画研究及び公募研究」、「基盤研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(E))」について分類。

(4)地域貢献

- ①県立広島大学はどのような地域貢献を進めていくべきと考えているのか。
- ②そのような地域貢献を推進していくため、どのように取り組んでいくのか。

広島県における高等教育機能強化の必要性

①生産年齢人口の減少や大学進学時の転出超過への対応

平成22年から平成52年の30年間で、広島県の生産年齢人口は51万人の減少の見込み、市場規模の縮小や労働力不足が懸念される中、社会の様々な場で、イノベーションを創出できる人材を継続的に輩出できる教育環境の構築が必要

広島県では大学進学時に毎年千数百人の転出超過が継続、若年層の転出超過に歯止めをかけるためには、首都圏や関西圏の大学と比較して、**より魅力ある質の高い教育環境**の構築が急務

②グローバル化やICTの進展等に対応した人材育成の要請

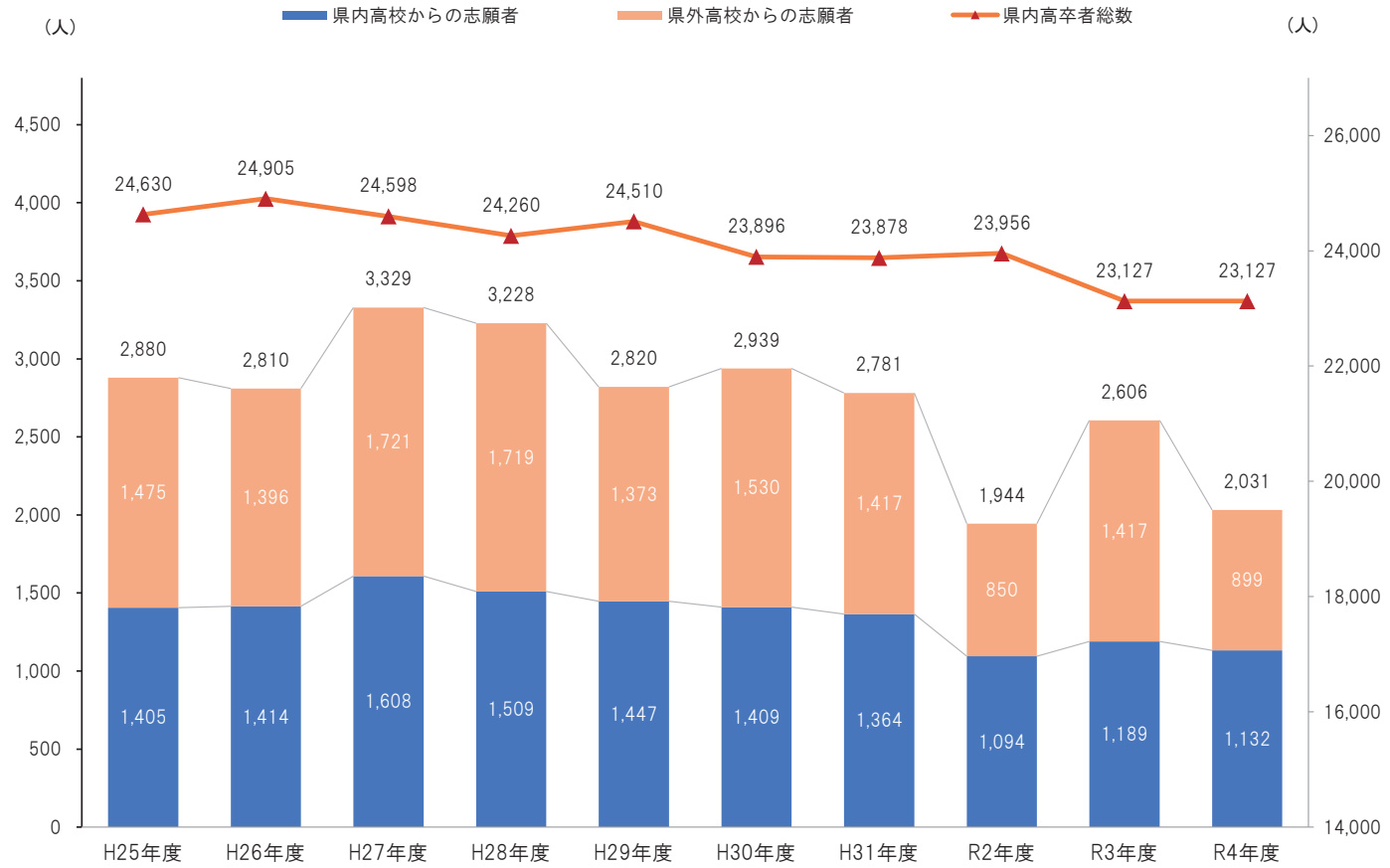
グローバル化が進展する中、県内企業の海外展開を主導できる人材や、**グローバル化する企業社員のマネジメントが担える人材**が必要

10～20年後には、日本の職業の半数はAI等で代替可能という推計もある中、**ICTやAIなどの基本的な構造や活用可能性等を十分に理解し、新たなビジネスモデルを提案できる人材**が必要

③初等中等教育と接続した「学びの変革」の展開

初等中等教育では、全国に先駆けて「学びの変革」を進め、課題発見・解決学習や海外留学を促進、高等教育においても、**初等中等教育で育成したコンピテンシーをさらに伸ばし、実社会で即戦略として活用できるレベルまで引き上げる教育**を展開することが必要

本学志願者数（県内・県外）と県内高卒者数推移



就 職 等 状 況 (令和4年3月卒業者)

令和4年5月1日現在

キャンパス	学部・学科		卒業生数 人(A)	進学者数 人(B)	就職 希望者数 人(C)	就職・進学以外 (A-B-C) 人(D)	就 職 決 定 者					卒業生数に 対する 就職率 (進学除く) (E/A-B)	
							総数 人(E)	就職率 (E/C)	(参考)就職決定率		県内 人(F)		県内比率 (F/E)
									前年同期	前年度最終			
広島	人間文化	国際文化学科	87	3	79	5	79	100.0%	100.0%	100.0%	39	49.4%	94.0%
		健康科学科	38	6	31	1	31	100.0%	100.0%	100.0%	11	35.5%	96.9%
	学部計		125	9	110	6	110	100.0%	100.0%	100.0%	50	45.5%	94.8%
	経営情報	経営学科	63	1	56	6	56	100.0%	100.0%	100.0%	36	64.3%	90.3%
		経営情報学科	33	3	30	0	30	100.0%	100.0%	100.0%	14	46.7%	100.0%
	学部計		96	4	86	6	86	100.0%	100.0%	100.0%	50	58.1%	93.5%
	キャンパス計		221	13	196	12	196	100.0%	100.0%	100.0%	100	51.0%	94.2%
庄原	生命環境	生命科学科	103	19	78	6	78	100.0%	100.0%	100.0%	35	44.9%	92.9%
		環境科学科	50	10	39	1	39	100.0%	100.0%	100.0%	15	38.5%	97.5%
	学部計		153	29	117	7	117	100.0%	100.0%	100.0%	50	42.7%	94.4%
三原	保健福祉	看護学科	62	5	57	0	57	100.0%	100.0%	100.0%	33	57.9%	100.0%
		理学療法学科	27	0	27	0	27	100.0%	100.0%	100.0%	11	40.7%	100.0%
		作業療法学科	31	0	31	0	31	100.0%	100.0%	100.0%	17	54.8%	100.0%
		コミュニケーション障害学科	33	0	32	1	32	100.0%	100.0%	100.0%	13	40.6%	97.0%
		人間福祉学科	41	1	39	1	39	100.0%	100.0%	100.0%	28	71.8%	97.5%
	学部計		194	6	186	2	186	100.0%	100.0%	100.0%	102	54.8%	98.9%
合 計			568	48	499	21	499	100.0%	100.0%	100.0%	252	50.5%	96.0%

就 職 等 内 定 状 況 (令和5年3月卒業予定者)

令和4年11月30日現在

キャンパス	学部・学科		卒業 予定者数 人(A)	進学 希望者数 人(B)	就職 希望者数 人(C)	就職・進学以外 (A-B-C) 人(D)	就 職 内 定 者					卒業者数に 対する 就職率 (進学除く) (E/A-B)	
							総数 人(E)	就職内定率 (E/C)	(参考)就職内定率		県内 人(F)		県内比率 (F/E)
									前年同期	前年度最終			
広島	人間文化	国際文化学科	88	3	77	8	71	92.2%	90.1%	100.0%	36	50.7%	83.5%
		健康科学科	33	3	30	0	25	83.3%	90.3%	100.0%	11	44.0%	83.3%
	学 部 計		121	6	107	8	96	89.7%	90.2%	100.0%	47	49.0%	83.5%
	経営情報	経営学科	61	0	60	1	56	93.3%	93.4%	100.0%	27	48.2%	91.8%
		経営情報学科	42	3	33	6	31	93.9%	100.0%	100.0%	13	41.9%	79.5%
	学 部 計		103	3	93	7	87	93.5%	95.7%	100.0%	40	46.0%	87.0%
	キャンパス 計		224	9	200	15	183	91.5%	92.6%	100.0%	87	47.5%	85.1%
庄原	生命環境	生命科学科	97	16	76	5	65	85.5%	90.5%	100.0%	25	38.5%	80.2%
		環境科学科	51	9	42	0	39	92.9%	92.3%	100.0%	14	35.9%	92.9%
	学 部 計		148	25	118	5	104	88.1%	91.1%	100.0%	39	37.5%	84.6%
三原	保健福祉	看護学科	63	3	54	6	51	94.4%	89.5%	100.0%	41	80.4%	85.0%
		理学療法学科	29	0	29	0	23	79.3%	77.8%	100.0%	11	47.8%	79.3%
		作業療法学科	30	0	30	0	20	66.7%	64.5%	100.0%	10	50.0%	66.7%
		コミュニケーション障害学科	25	0	25	0	15	60.0%	63.6%	100.0%	3	20.0%	60.0%
		人間福祉学科	37	0	37	0	26	70.3%	56.1%	100.0%	17	65.4%	70.3%
	学 部 計		184	3	175	6	135	77.1%	72.0%	100.0%	82	60.7%	74.6%
合 計			556	37	493	26	422	85.6%	84.7%	100.0%	208	49.3%	81.3%

【県立広島大学】

開催回数・参加者数(※3キャンパスの合計)

令和4年3月31日現在

区 分		R元年度	R2年度	R3年度
講演会・ シンポジウム等	開催回数(回)	10	1	0
	参加者数(人)	255	98	0
公開講座	開催回数(回)	84	43	56
	参加者数(人)	2,880	816	727
三原シティ カレッジ	開催回数(回)	34	13	22
	参加者数(人)	585	75	201
高大連携 公開講座	開催回数(回)	14	0	14
	参加者数(人)	390	0	551
合 計	開催回数(回)	142	57	92
	参加者数(人)	4,110	989	1,479

受講料収入

令和4年3月31日現在

区 分		R元年度	R2年度	R3年度
有料公開講座	講座数(講座)	19	11	9
	参加者数(人)	507	62	87
	受講料収入(円)	820,000	347,000	151,600

① 産学官連携の状況

【県立広島大学】

令和4年3月31日現在

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度
産学官連携 セミナー・ 研究会・相談会	開催回数(回)	8	1	1
	参加者数(人)	248	98	135

令和4年3月31日現在

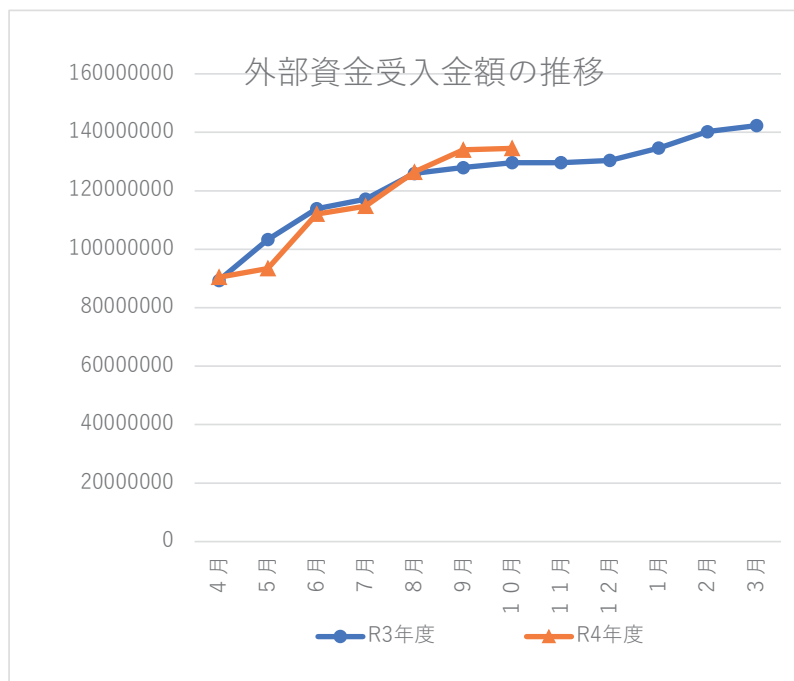
区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度
特許出願件数 ※1	地域創生学部	—	1	0
	人間文化学部	0	—	—
	経営情報学部	1	—	—
	生物資源科学部	—	3	2
	生命環境学部	1	—	—
	保健福祉学部	1	1	1
	地域基盤研究機構	0	0	1
	計	3	5	4
技術移転件数 ※2	地域創生学部	—	0	0
	人間文化学部	0	—	—
	経営情報学部	0	—	—
	生物資源科学部	—	2	0
	生命環境学部	1	—	—
	保健福祉学部	1	0	0
	計	2	2	0

※1 本学が出願人のもののほか、(財)ひろしま産業振興機構が出願人のものを含む。
複数の学部が関係する出願については、出願時の持分により計上。

※2 技術移転件数は、実施許諾及び譲渡の契約件数。

(5) 法人経営

- ①設置団体(広島県)と教職員とどのような関係を築いていくのか。
設置団体である広島県の人材目標を体現できるよう努力する。
県との間で定期的な会合を持ち、意思の疎通を図る(法人協議会の定期開催)。
職員と教員は大学にとって車の両輪であり、互いの立場を尊重する(教職協働)。
- ②大学運営並びに法人の経営基盤の強化にどのように取り組んでいくのか。
志願倍率を高め、受験料収入の増収に努力する。
科研費の取得に努め、間接経費の収入を増やす。
外部の競争的資金獲得に努力する。
- ③1法人2大学体制を踏まえて、叡啓大学との連携にどのように取り組んでいくのか。
単位互換制度を構築する。
定期的な学生交流会を開催する。
スタディツアーなどを共有し、両大学の留学生や日本人学生との交流を図る。



学部別受入						
	地域創生	生命資源科学	保健福祉・助産	経営管理	機構・センター	合計
4月	2,682,000	86,969,000		770,000		90,421,000
5月	1,000,000	1,500,000	396,000		100,000	2,996,000
6月	0	3,000,000	0	0	15,641,600	18,641,600
7月	1,100,000	1,130,000	455,000	0	0	2,685,000
8月	700,000	4,693,334	230,124	0	6,050,000	11,673,458
9月	1,100,000	6,500,000				7,600,000
10月		500,000				500,000
11月						0
12月						0
1月						0
2月						0
3月						0
累計	6,582,000	104,292,334	1,081,124	770,000	21,791,600	134,517,058

入口 →

一般(前期・後期)

学校推薦型

総合型 (専願ではない)

社会人特別

帰国生徒特別

外国人留学生特別

入試改革(個別→面接・小論文)

指定校制(農業高校)

編入学(県立農技大・国立高専)

志願者倍率を上げる

大学 →

・アクティブラーニング

・何を学び、身に付ける
ことができたか

・学生の満足度

・学修成果の可視化

・教学 IR

・国際化(英語での授業:欧米圏から)

・大学院改革

・再編の総括(学部・学科名・総合問題、経過選択制)

・教教分離(県大型)

出口

就職率 100%

学生の満足度

卒業後のケア

ご清聴ありがとうございました。